

女子大國文

第百五十二号

平成二十五年一月発行

女子大國文 第百五十二号

平成二十五年一月発行

京都女子大学国文学会

女子大國文

第百五十二号

平成二十五年一月十五日 印刷
平成二十五年一月三十一日 発行

〒605-8585 京都市東山区今熊野北日吉町五番地
編輯兼 発行者 京都女子大学国文学会

電話 〇七五-五三一九〇七六
FAX 〇七五-五三一九一三〇
振替 〇〇〇〇-五三三二一四

〒606-8304 京都市上京区上長者町通黒門東入
印刷所 西村印刷株式会社

電話 〇七五-四四一四一〇八代
FAX 〇七五-四三三二六二八二

打歌山 攷……………清水克彦(一)

—— 未完の報告書 ——

播磨極楽寺出土瓦経の篋書き文字……………西崎 亨(七)

—— 筆順と文字の理解度・習熟度 ——

京都女子大学図書館所蔵
『広隆寺縁起』(明応三年本)……………中前正志(二七)

書評 中前正志『神仏靈験譚の息吹き
—— 身代わり説話を中心に ——』……………豊島 修(四二)

彙報……………(四八)

京都女子大学国文学会

彙報

「蘆北賞」授賞式出席の記

新聞 一美

○本誌『女子大國文』が第二十二回「蘆北賞」(學術誌部門)を受賞しました。詳細については、後に掲載しております新聞一美先生「蘆北賞」授賞式出席の記」をお読み下さい。

二〇二二年度国文学会行事(後期)

○公開講座

十月十九日(金)午後四時三〇分より 於J420教室

講題 古事記の文体を問う

—表記法を問わらせて—

講師

皇学館大学教授
大阪市立大学名誉教授

毛利正守氏

○学会旅行

十一月十一日(日)、鞍馬・貴船方面を散策する予定でしたが、雨天のため中止しました。

この度、本誌『女子大國文』が第二十二回「蘆北賞」を受賞しました。この賞は、財団法人橋本循じゆん記念会が毎年中国文学に関する論文・學術誌等を対象として贈る名誉ある賞です。

橋本循立命館大学名誉教授(一八九〇〜一九八八)は、『楚辞』等の中国文学の研究者でした。「蘆北」は氏の号でご出身の福井県武生に因むものだそうです。橋本循記念会は、氏の没後に、令室橋本多ん夫人が中心になって設立されました。夫人は本学の前身である京都高等女学校で学ばれた京女にも縁のある方だとお聞きしました。

十一月八日からすま京都ホテルで授賞式が行なわれました。本誌の発行母体である京都女子国文学会を代表して、漢文学担当教員の私が出席いたしました。

今回の受賞は論文部門、若手を対象とした奨励賞、學術誌部門の三件で、本誌は學術誌部門の受賞でした。論文部門は二宮美那子氏、奨励賞は京都府立大学大学院生の井口千雪氏が受賞されました。記念会理事長の清水凱夫氏より賞(賞金五十万円の目録)が授与され、審査員を代表して京都大学名誉教授で記念会理事の

興膳宏氏より、詳しい審査報告がありました。

当日配布の資料に載せられた本誌の受賞理由は次の通りです
(算用数字を漢数字に置き換えました)。

一九五五年の創刊。

現在までに一五〇号(二〇一二年一月)が刊行されている。本誌は京都女子大学国文学会が発行し、国語・国文学に関する論文を主に編集され、斯界に重要な位置を占めること既に久しい学術誌である。近年では「文選巻第二時雨亭文庫本・宮内庁書陵部本対校訳文稿」(第一四七号)、「吐魯番阿斯塔那墓出土文書の則天文字小考」(第一四八号)、「白居易と菅原道真の三月尽詩について―「送春」の表現―」など、中国文学研究に極めて有益な論考も多く発表されるようになってきている。今後も優れた論文が掲載され、国語・国文学のみならず、中国文学の領域にも寄与されんことが大いに期待される。

右に題が挙がっている論文は、文選と則天文字に関わる論文が西崎亨先生の御執筆、白居易と道真の三月尽詩に関わる論文が私の執筆です。「漢字」「漢文学」は、東アジアにおける共通する文字・文学ですから、国文学・国語学の研究であっても「中国文学の領域にも寄与」することが大いにあり得るわけです、その点



が評価されたことをうれしく思いました。

他にも近年に本誌に掲載された中国文学・漢文学に関わる論文としては、李婷氏の「上田秋成の句題和歌―中国文学受容の一端―」（第一四二号）、元教授の湯澤質幸先生の「近世中期における儒者唐音音読論―平賀中南を中心として―」（同号）、畑中智子氏の『慈覚大師伝』における、先師の夢」（第一四四号）、山本真由子氏の「源順と紀齊名の詩序表現について―具平親王詩宴の『望月遠情多詩序』を中心に―」（第一五一号）などがあります。

「受賞の言葉」が求められましたので、「わが国の文学や語学を深く追究しようとすればするほど、漢籍との関わりということが無視できません。この度の受賞は『女子大國文』の中のそのような分野を評価していただいたのだとありがたく思っております。この受賞を機縁としまして、今後その方面の研究論文の掲載、特に若い研究者の論文の掲載を目指して行こうと思っております」ということを申しました。

授賞式のあとは記念撮影があり、懇親会が開かれました。記念会常務理事の芳村弘道立命館大学教授が乾杯の挨拶をされ、和氣藹々とした雰囲気でした。元本学学長で京都女子学園理事の狩野直禎先生も記念会理事として来ておられたこともあり、楽しいひとときを過ごすことができました。

（しんま・かずよし 平成二十四年十一月二十日記）

『女子大國文』 投稿規定

一、(投稿資格)

- ① 京都女子大学国文学会の会員は投稿することができる。
- ② 京都女子大学国文学会の会員以外の者も、編集事務局の判断で寄稿を認める。

二、(刊行回数・時期・投稿の締め切り)

- ① 毎年二回、九月と一月に刊行する。
- ② 毎年、五月十日と九月三十日を投稿の締め切りとする(厳守)。

三、(投稿の枚数)

枚数は原則として自由であるが、四百字詰原稿用紙、四十枚(注・表・図版などを含む)を目安とする。また、完全原稿であることを原則とする(多少の加筆訂正はやむを得ないが、段落や章の差し替えなど大幅な修正を加えたものは、査読を行う関係上不可)。

四、(投稿に際して提出すべきもの)

- ① 手書き原稿の場合、投稿原稿二部(審査用。二部ともコピーしたもので可)。

② ワープロ原稿の場合、プリントアウトしたものの二部(審査用)と、投稿原稿が収められている電子データ(ワープロ専用機の場合は機種、パソコンを使用の場合はワープロソフト名を通知すること)。

五、(投稿に際しての注意事項)

- ① 論文末尾に所属、回生、卒業年度などを丸ガッコに括弧で記すこと。本学の教員・院生・学生の場合は、(本学教授(本学大学院博士後期課程)(本学文学部国文学科四回生)などと記す。

② 連絡先の住所を記した別紙を添えること(採否の知らせや校正送付等のため)。その際、投稿原稿についての連絡事項をすみやかに行うために、差し支えなければ、電話番号・ファックス番号・メールアドレスなども添えること。内部の教員・院生・学生は直接原稿のやりとりをするので、住所は不要だが、必要に応じて電話番号やメールアドレスを『女子大國文』編集事務局から聞くことがある。これらの個人情報については、投稿原稿についての連絡以外に使用す

ることはしない。

六、(投稿先)

投稿先は以下の通り。

〒六〇五―八五〇一 京都市東山区今熊野北日吉町三五番地

京都女子大学国文学会

『女子大國文』編集事務局

七、(投稿論文の採否)

投稿論文の採否は、編集委員の査読、または関連分野の外部研究者査読の結果を経て、編集委員会にて決定し、結果を投稿者に通知する。

八、(校正)

校正は原則として、再校までとする。校正段階での大幅な修正は、査読を経た関係上認められない。

九、(本誌・抜き刷りの贈呈)

投稿論文が掲載された場合、本誌二部、抜き刷り三十部を贈呈する。増刷希望の場合は、実費執筆者負担で受け付けるので、

採用の通知を受けてからすみやかに『女子大國文』編集事務局まで連絡すること。

十、(掲載論文の著作権及び電子媒体による公開)

本誌に掲載された論文等については著作権の複製権・公衆送信権を京都女子大学国文学会及び京都女子大学に許諾するものとする。但し、著作権の移動はなく、著作は両者、或いはいずれか一方への許諾をいつでも取り消すことができる。

本誌に掲載された論文等の全文又は一部を電子化し、京都女子大学学術情報リポジトリサーバ或いはその他のコンピュータネットワーク上で公開することがある。

十一、(規定の改正)

① 本規定の改正は、会員の議決を経なければならない。

② 規定の改正の結果は、すみやかに本誌に掲載する。

附則

本投稿規定は平成十八年三月二十日より施行する。

本投稿規定は平成二十三年十月五日より一部改正施行する。

本投稿規定は平成二十四年十月二十四日より一部改正施行する。

編集後記

○学内の学術研究成果物を電子的に収集・保存して、学内外に無償で公開し、広く社会に提供することを目的とした京都女子大学学術情報リポジトリの運用(運用開始は平成二十五年二月を予定)に伴い、投稿規定第十項を改定しました。ご一読下さい。

○今号の査読委員は次の方々です。

西崎 亨・田上稔・江富範子・川島朋子・工藤哲夫・山崎
ゆみ・峯村至津子

以上の各氏に査読を依頼し、編集委員会にて結果を報告、審議の結果、三点が掲載となりました。

○「蘆北賞」受賞、一同、大喜びしております。『女子大國文』のますますの発展を期して、会員の皆様の投稿をお待ちしております。

(江富・峯村)